

[okazaki\_02]

活動タイトル	「さっぽろキャンドルナイト 2005」
実施日	2005年6月21日
場所	(札幌市)
対象数	
内容	<p>北海道地球温暖化防止活動推進員の活動の一環として、さっぽろキャンドルナイトの取り組みに関わりました。</p> <p>昨年に引き続き、札幌市と市民団体・事業者から構成される実行委員会が、市内各地の夏至の夜とその前後のキャンドルナイトイベントを、広く市民に広報しました。主役は、キャンドルナイトに参加する人たちとイベントやキャンドルナイトレストランを実施する方たちというスタンスで、実行委員会は、裏方にまわって、協賛金集めや消灯のお願い、チラシやポスターの作成やその他の広報に力を注ぎました。</p> <p>イベント数、キャンドルナイトレストランの数とも、昨年を上回り、いろいろなところで、皆さん、ステキな時間を過ごして頂けたようです。私は、実行委員長ということで、いくつかの会場を回らせてもらったので、ステキな時間をたくさん味わうことができました。役得、役得！</p> <p>大通公園西6丁目広場では、1,000個のマヨネーズの空き瓶に入ったキャンドルの灯りのもと、馬頭琴とのだ歌のコンサートが開かれ、500名以上の方がモンゴル音楽を楽しみました。近くの芝生には、敷物持参で参加した人が、グループでくつろぐ姿もあり、その敷物の周りには、これまた持参のマイキャンドルが並んでいて、キャンドルナイトの広がりを感じました。途中、参加した人たちと一緒に、8時からのテレビ塔の消灯のカウントダウンもしました。テレビ塔以外にも、ビルの屋上のネオンサインの消灯について、市の職員の方が、いろいろ声かけをして下さって、いくつか実現したのですが、消灯されたところがあると、点いているところの明るさがよけい目立って、「もっと暗くても良いよね。」と言う声があちこちで聞かれました。これも、1つの成果だと思います。</p> <p>また、近所のお店が共同で、牛乳パックの手作り灯ろうを通りに並べてステキな夜を演出したところもありました。この手作り灯ろうは、昨年もあったのですが、今年は、その技が一段と磨かれ、それはそれは素晴らしいものでした。</p> <p>「キャンドルナイト」を通して、環境問題や平和、人と人とのつながりや世界の国々ことなど、いろいろなことに人々が思いをはせ、今までと違った持続可能な新しいスタイルが広がっていくことを予感させる今年のさっぽろキャンドルナイトでした。10月の始めには、さらに多くの方たちと、さっぽろキャンドルナイト 2005 のいろんな 夜を共有しようという、取り組みをまとめた報告書が完成しました。</p>

実施写真等